

AIファースト経営変革塾

価値創出につながるAI導入手法とは

ごあいさつ



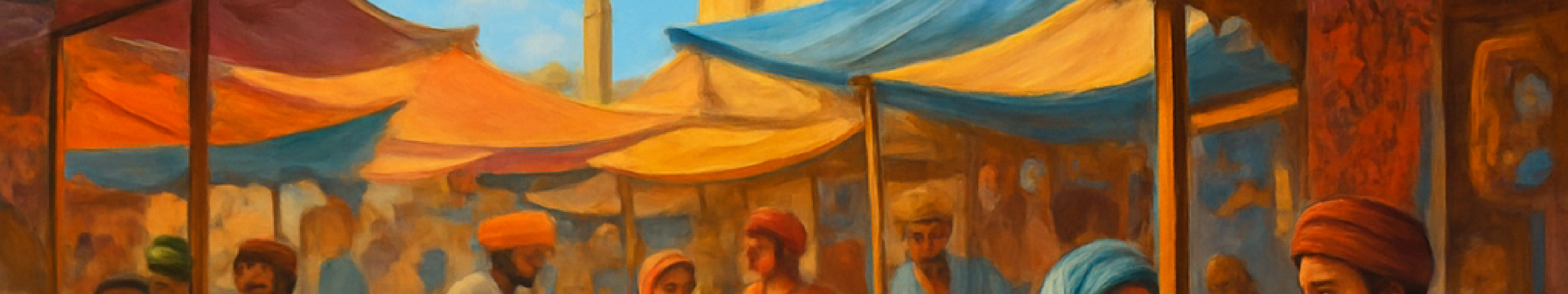
EXDREAM株式会社代表
AIリサーチャー 斎藤 喜寛

2013年にEXDREAMを創業。
2016年から音楽生成AIのリサーチャーとしての業務を開始。
KIOXIAや手塚治虫AI復活プロジェクト「TEZUKA2020」、三菱地所テーマパークなどのAI開発と実装を手がける。
2020年からはビジネススクールでAI講師に就任しAIスタートアップの育成を担当。
以降、複数のAIサービスをリリース、30社以上のAIコンサルタントを務める。
現在はNTTファシリティーズ社のAIアドバイザーとして同社のAI推進を支援している。



EXDREAM株式会社
アシスタント 中野 弥生

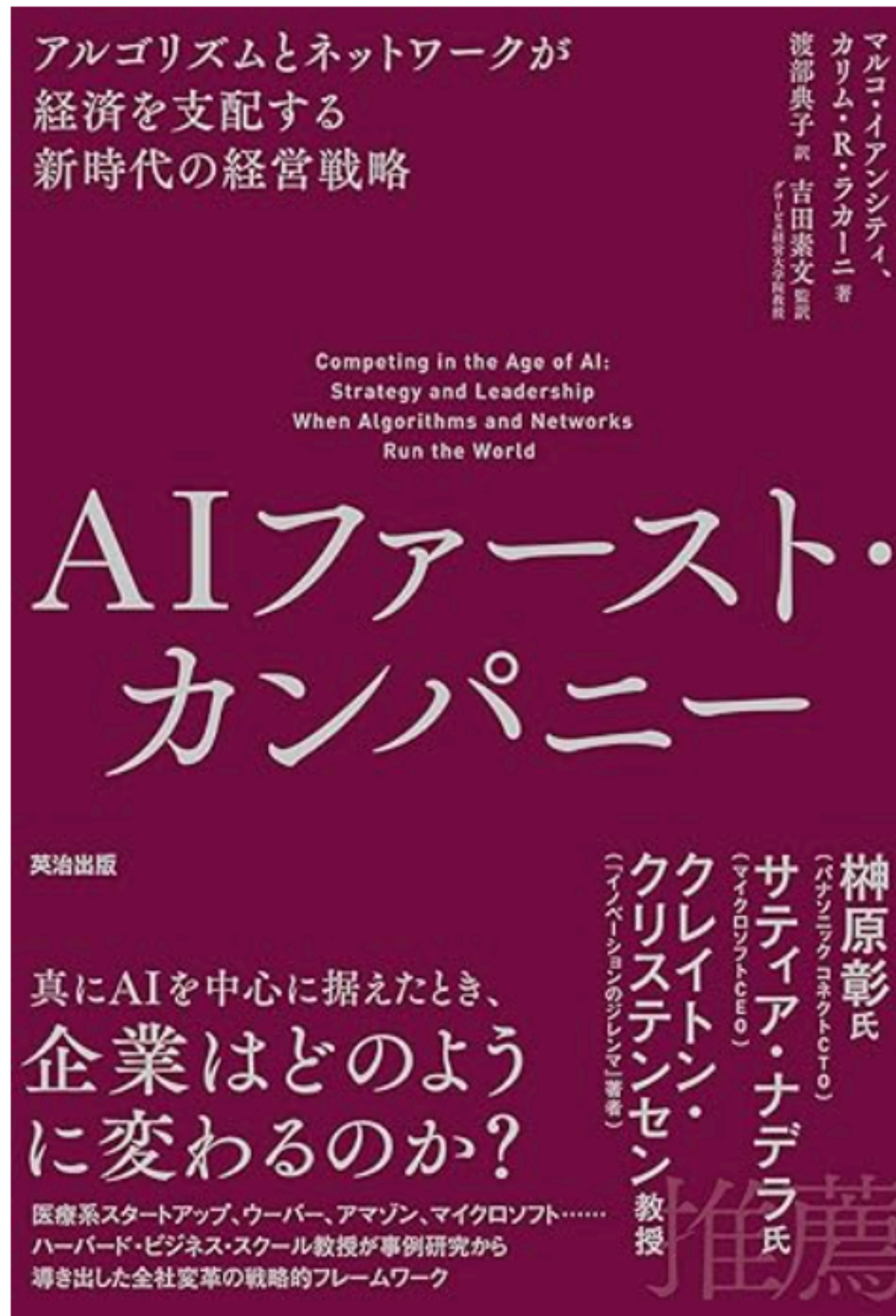
大学では商学部でマーケティングと哲学を学び、新卒で金融システムエンジニアとしてのキャリアをスタート。
その後不動産、金融系などへ転職しシステム設計、テスト、ユーザー側まであらゆる立場からシステム開発を経験。
2025年よりEXDREAM株式会社にてAIコンサルタント兼CEOアシスタント・企画全般を担当している。



1.なぜ今AIファーストカンパニーが 世界的にビジネスの世界で注目されるのか



AIファースト・カンパニーの由来



「AIファースト・カンパニー」は、ハーバード・ビジネススクールのマルコ・イアンシティ教授とカリム・ラフラニ教授による著作で、AI時代における企業経営の指針を示している。

本書の核心は、AIを単なる効率化ツールとして導入するのではなく、**企業の思想そのものをAI前提で再設計すること**にある。

「AIファースト」とは、

- 経営戦略
- サービス・商品設計
- 業務プロセス
- 組織文化

など、企業活動の全てに及ぶ。

つまり、**AIを導入するのではなく、AIを軸に企業を再設計**することである。

AIファースト・カンパニーの由来

デジタル化の次のフェーズ「AI化」

- これまで企業は「デジタル・ファースト」、すなわち紙や人手中心の業務をデジタルに置き換えることをテーマとしてきた。
- しかし現在はさらに一歩進み、「AIが前提」の社会に突入している。
例：検索・地図・翻訳・物流・建物管理・エネルギー最適化
…すでにAIなしでは成り立たないサービスが多数存在している。

→→→ もはやAIは“選択肢”ではなく“必須前提条件”になっていく。

この必須の前提条件こそが「AIファースト」であり、その思想を基に経営される企業が「AIファースト・カンパニー」である。

「AIファースト」にならないといけない理由

(1)スピードとスケールの差（特にスピード）

AIは人間の判断や作業を圧倒的に高速化・自動化し、利用すればするほど学習で強化される。後追い企業との差は指数関数的に拡大する。

(2)ビジネスモデル自体が変わる

デジタル化は「効率化」だったが、AIは「価値創造の構造」を変える。

例：建物のエネルギーマネジメントが“運用改善”から“AIによる最適化と予測型メンテナンス”へ進化。

(3)競争のルールが変わっている

AI企業は「利用者データ → 学習 → サービス改善 → 利用拡大」という“超高速学習ループ”を持ち、従来型企业より速く進化。

業界境界が曖昧化し、異業種からの参入（GAFA、スタートアップなど）が常態化する可能性。

→→→ 「AIファースト」にならないと、これからの競争に勝てない！

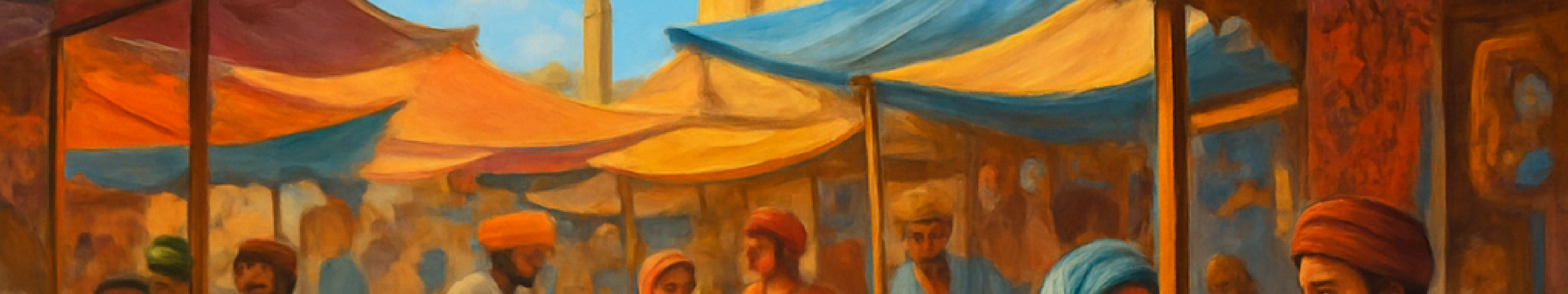
「AIファースト」とは企業を再設計すること

「AIファースト・カンパニー」は、ハーバード・ビジネススクールのマルコ・イアンシティ教授とカリム・ラフラニ教授による著作で、AI時代における企業経営の指針を示している。本書の核心は、AIを単なる効率化ツールとして導入するのではなく、企業的设计思想そのものにAI前提で再設計することにある。

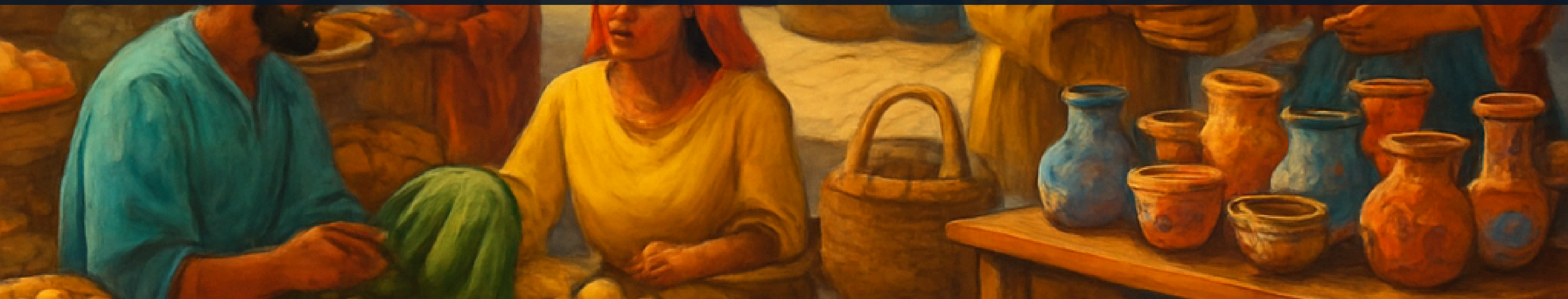
「AIファースト」とは、
•経営戦略
•サービス・商品設計
•業務プロセス
•組織文化
など、企業活動の全てに及ぶ。

つまり、AIを導入するのではなく、AIを軸に企業を再設計することこそが競争力の源泉となる。

前提となるのは社員全員のAI活用
=
AIリテラシー向上が超重要



2.なぜAIツール配布のみのAI導入は失敗するのか？ 既存業務へのAI導入のメリットとデメリット



なぜAIツールの導入は難しいのか

既存業務へのAI導入は限界がある。

なぜなら

- 個人最適に留まりやすい=全社的な大きなインパクトを出せない
- 効果が削減中心に偏り、競争優位になりにくい
- 削減=人員削減は日本では難しい。よって効果が出しにくい

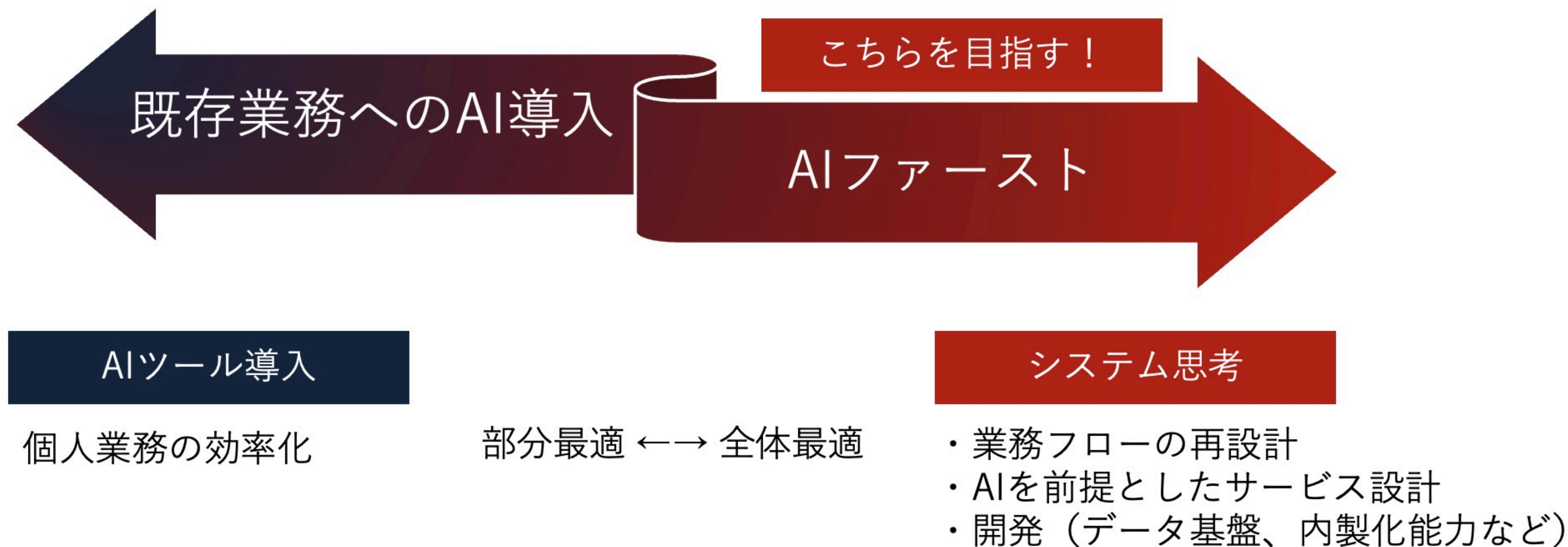
そこでAIファーストの考え方が役立つ。

つまり、

AIを後付けではなく、業務フロー・仕組み・サービスをAIありきで全く新しいものに設計し直すということである。

「AIファースト」の考え方

単なるAIツール導入ではなく、経営そのものを変えて、全社的に、これまでにないスピードで新しい価値を生み出すことを目指す！



AIファーストで目指すのは価値の創出である

AIファーストはコスト削減から**価値創出への変革**である。

AI活用の成果は、段階が上がると性質も変化する（下図参照）

効率化（コスト削減）

高度化

価値創出

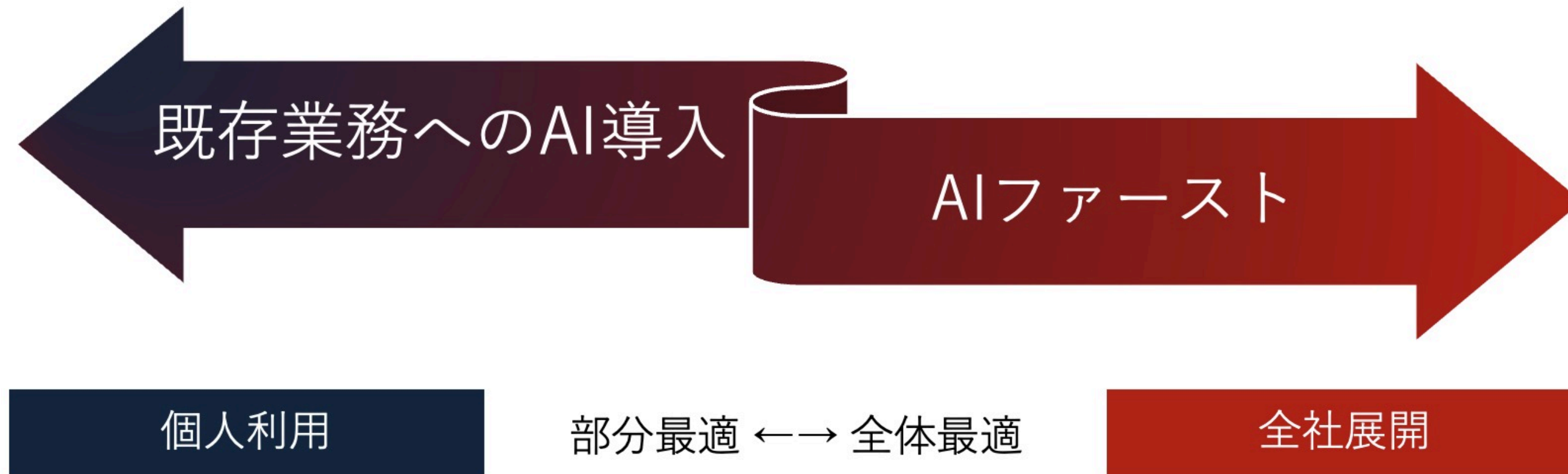
コスト削減 ←→ 価値創出

- ・ 新規事業・サービスを生み出す
- ・ 顧客体験を革新する
- ・ 新市場を開拓する

- ・ 削減と価値創出は別のレベルの取り組み
- ・ AIファーストに進むほど、その目的は価値創出へ移る

AIツール導入の落とし穴

現在は、「個人利用 → 全社展開」という、なだらかに白からグレーゾーンを黒く染めるようなグラデーション展開の流れが現実的となっている。



個人利用は、その人の能力に大きく依存し、うまくいく人は自走し、ある意味勝手に成果を出すことができる性質がある。

逆に言うと成果を出せる人が限定されてしまう。

AIファーストはなぜ難しいのか

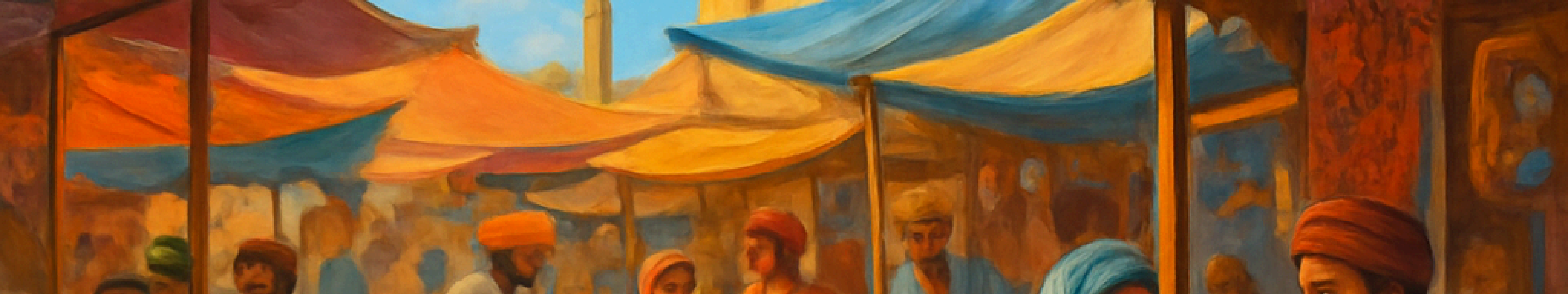
全社展開では、以下のことが必須になる。

- **誰が使っても一定の成果が出る（再現性）**
- **誰が使っても事故が起きにくい（ガバナンス）**
- **成果が横展開される（知識の共有）**
- **部門最適ではなく全体最適になる（効果の設計）**

これらをきちんと設計することなく、全社展開をする事は困難。

そしてこの全社展開を行うには、AIだけではなく、ビジネスそのものを俯瞰して見られる能力というのが強く求められる。

つまりAIファースト化は非常に難しいということ



3. 価値創出につながるAI導入手法と AIファースト4つのステップ



AIファーストの4つのステップ

Step1：リーダーシップ

- 経営陣がAIファーストの思想を示す
- 推進リーダーが実行を統率する
- アーリーアダプターが現場で先導する（アーリーアダプター：新技術をいち早く受け入れ使い始める人々）

経営陣が本気で旗を振らないAIは、全社には広がりません。

IT、DX部門任せのAI導入が失敗に至る理由は、AIファースト化が経営変革に他ならないためです。

AIファーストの4つのステップ

Step2：制度

- 利用ガイドライン
- 評価制度
- リスク管理
- 人材育成（研修）

制度がないAI活用は、AIが組織に拡大するほどリスクが増えます。
しかし制度が過剰に硬直すると実際の実務が止まってしまいます。
ここはバランスではなく、運用可能な統制＝ガバナンスが必要という事です。

AIファーストの4つのステップ

Step3：仕組み

- データ成形
- プロンプト共有
- ナレッジ蓄積
- ユースケース集

仕組みがないと成功を生み出せず、生み出した成功を再利用できません。

結果、毎回ゼロからの再スタートとなってしまいます。

これではAIファースト化が進みません。

つまりAIファースト化とは仕組み化なのです。

AIファーストの4つのステップ

Step4：システム思考

- AIを前提に業務やサービスを再設計
- データ基盤と開発力を強化
- 全社レベルでAI化を実現する考え方

システム思考は、AIファースト化の仕上げのステップとすることができます。

これまでの3つのステップと違い、大規模な開発など、大きな意思決定が求められるステップです。

ここまで来ると、AIはツールではなく、いわば会社のOSになります。

AIファーストの4つのステップ

AIファースト化のステップになっている

Step1

リーダーシップ

経営陣がAIファーストの思想を示し、推進リーダーが実行を統率し、アーリーアダプターが現場で先導する

Step2

制度

AI活用を全社に根付かせるためのルールと体制。
利用ガイドライン、評価制度、リスク管理、人財育成(研修)など。

Step3

仕組み

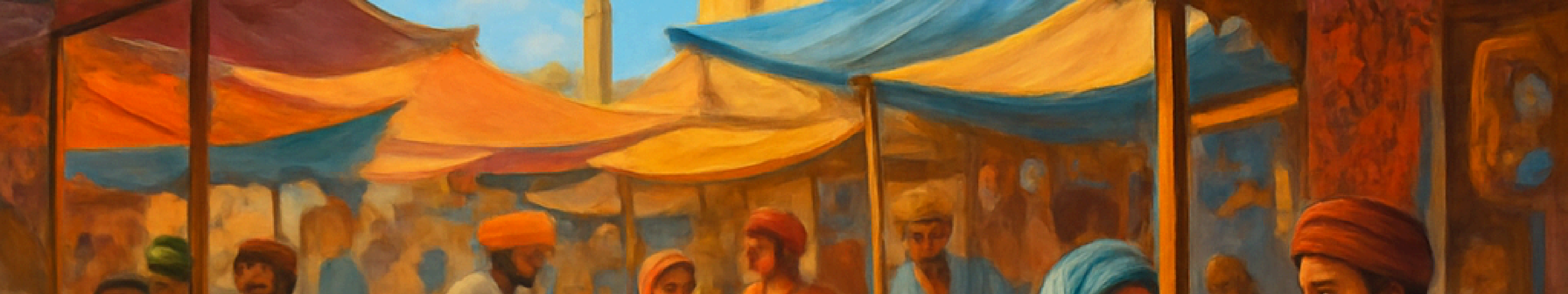
部署や個人の取り組みを全社に共有する基盤の整備。
データ共有、プロンプト共有、ナレッジ蓄積、ユースケース集など。

Step4

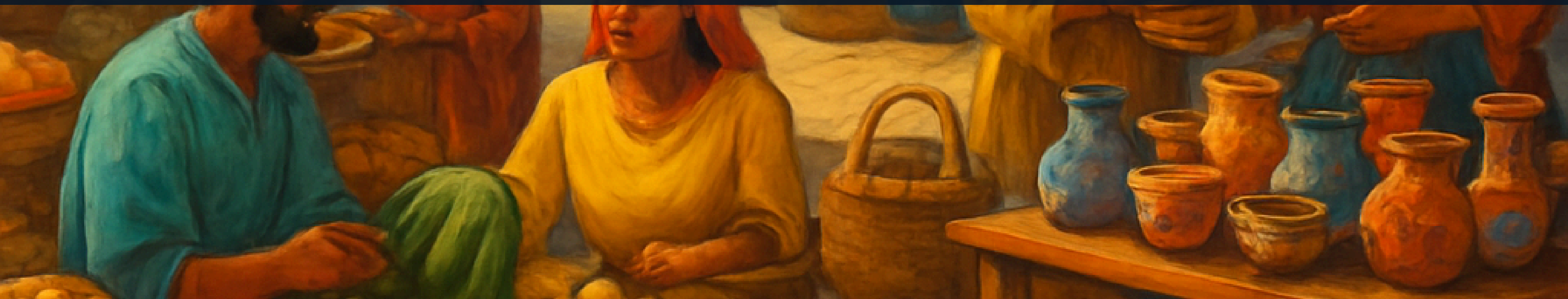
システム思考

AIを前提に業務やサービスを再設計し、データ基盤と開発力を強化して、全社レベルでAI化を実現する考え方。

*Stepの考え方は複数あります



4.企業が実践すべきAIファーストに向けた8つの取り組み



AIファーストで重要な3ステップ

4つのステップから、システム思考を除いた[前段階の3つ](#)について、リーダーシップ2つ、制度4つ、仕組み2つ、の8つに分けて解説していく。

リーダーシップ

- 1.経営主導のAIファースト推進 : (経営が「AIファースト」を宣言・方向付ける)
- 2.各部署にAI推進リーダーを設置 : (組織内に推進責任者を置き、部門ごとに推進をリードする)

制度

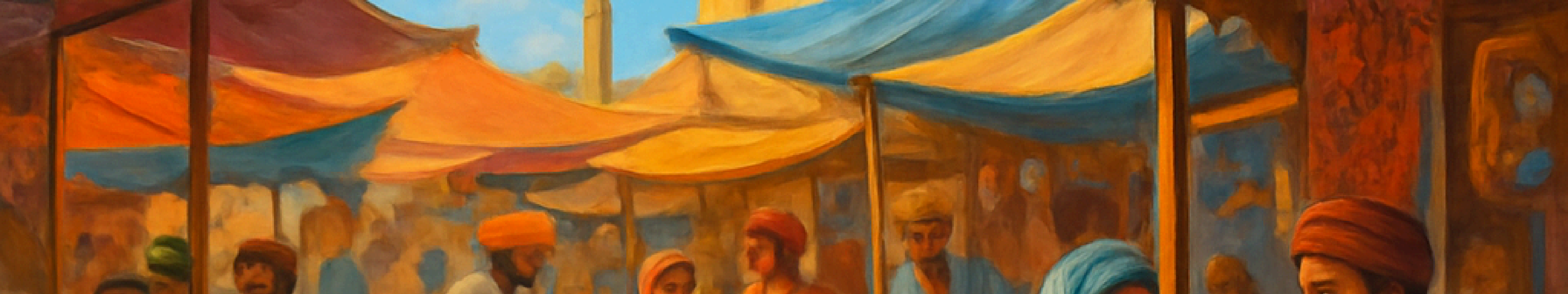
- 3.AIツールを付与 : (会社負担でAIツールを全社的に、または部署別に提供)
- 4.AI学習機会の提供 : (研修や勉強会を通じてAIリテラシーを向上させる)
- 5.AIファーストの新プロジェクト組成 : (AIを前提とした新しい取り組みを立ち上げる)
- 6.AIツール活用レベルを測る評価基準の導入 : (AI活用度を定量的に測り、人事評価や組織改善に反映する)

仕組み

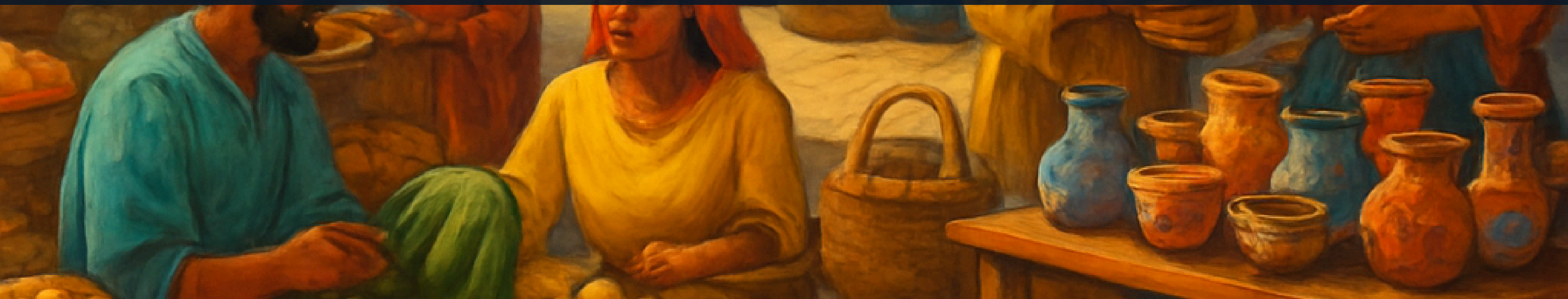
- 7.社内AIツールの開発と提供 : (業務に合わせた独自のAIツールを内製・展開する)
- 8.社内データやAIスキルの社内共有 : (社内データやプロンプトを全社で共有し、横展開を促す)

AIファースト化取り組みの事例：国内先行企業4社をベンチマーク

企業 / 項目	経営主導のAIファースト推進	各部署にAI推進リーダーを設置	AIツールを付与	AI学習機会の提供	AIファーストの新プロジェクト組成	活用レベル評価基準	社内AIツールの開発と提供	データ・スキル共有
LINEヤフー	○ (生成AI義務化を宣言)	○ (部門推進者設置)	○ (ChatGPT Enterpriseを全社員に付与)	○ (必須研修・ルール整備)	○ (業務効率化プロジェクト)	x	○ (社内AI効率化ツール)	○ (アンバサダー制度など)
パナソニックコネク	○ (全社導入を経営主導)	○ (推進体制あり)	○ (国内全社員約1.24万人に提供)	○ (スキル向上施策)	○ (現場適用プロジェクト)	x	○ (自社向けAIアシスタント)	○ (事例・プロンプト共有)
DeNA	○ (“AIオールイン”方針)	○ (横断推進体制)	△	○ (社内研修・イベント)	○ (事業・PJ多数)	○ (全社評価指標DARS導入)	○ (自社向けAIツール多数)	○ (知見共有)
博報堂DY HD	○ (経営主導で推進体制)	○ 若手社員がベテランにAIツール活用を教える	△	○ (研修参加者8,500名超)	○ (新サービス・共同開発)	x	○ (広告特化LLM・社内共有ツール)	○ (プロンプト共有ツール活用)



5.AIファースト化取り組みの事例 清水建設



AIファースト化取り組みの事例： 清水建設

AIファースト化の事例として、清水建設を取り上げます。

同社は国内でも積極的にAIファースト化を進めており、日本の建設業界におけるAIファーストの代表的な実践例のひとつと言って良いでしょう。

企業 / 項目	経営主導のAIファースト推進	各部署にAI推進リーダーを設置	AIツールを付与	AI学習機会の提供	AIファーストの新プロジェクト組成	社内AIツールの開発と提供	活用レベル評価基準	社内データやAIスキルの社内共有
清水建設	○(シミズグループAI基本方針を制定)	△(120名DX人材配置計画)	○(法人AI導入→1,200名超)	○(DX人材120名育成・リテラシー研修)	○(カワセミ外販／シールドAI／SYMPRESTなど複数)	○(Lightblue Assistant内製展開、部門別マイアシスタント開発)	×(明確な評価制度なし)	○(活用事例や知見を全社共有)

AI学習機会の提供によるゴールの一つとして計画

社内向けの独自AIだが外部サービスの利用

経営主導のAIファースト化推進

2025年6月、「シミズグループAI基本方針」を制定し、グループ全体に適用されるAI利用の基本原則を正式に定めた。

この方針は経営トップのリーダーシップのもとに策定され、AIを業務や事業に組み込む際の倫理・安全・透明性の指針を明確化している。

[建設業界における意義](#)

[建設業界の「AIガバナンス指針」先行事例](#)

[経営主導の推進](#)

[「経営主導のAIファースト推進」を公式に表明](#)

→→→経営層が「AIファースト化」を公式に宣言することで、現場のAI導入～全社的な制度整備までを一貫して推進していることがうかがえる。

シミズグループAI基本方針6つの基本原則

シミズグループAI基本方針6つの基本原則

1・人間中心のAI活用

AIは人の判断や創造性を補完するものと位置づけ、人間の尊厳や主体性を最優先とする。

2・人権の尊重

AI利用において差別や偏見を助長しないよう、基本的人権を尊重する。

3・法令順守・権利保護

国内外の法規制を遵守し、知的財産権やプライバシー権を侵害しない利用を徹底する。

4・安全性の担保

建設現場など高リスク環境でのAI利用において、安全を最優先とした設計・運用を行う。

5・説明可能性・透明性の確保

AIの判断プロセスを可能な限り説明可能にし、利用者や関係者が理解できる形で提供する。

6・AIガバナンス体制の構築と人材育成

全社的なガバナンス体制を整備し、AI倫理・リスク管理を実行。加えてAIを使いこなす人材育成を推進する。

清水建設におけるAIツール付与事例

2023年11月から gibree 社の法人向け生成AIサービス「法人GAI」を導入し、2024年3月時点で1,200名超の従業員が活用。

さらに、2025年4月からは社内向け生成AIアシスタント「Lightblue Assistant」を全社展開し、既に2,000名を超える従業員が利用。

部署単位・全社単位でAIツールの配布・利用が進み、個人利用フェーズから組織的なAI活用フェーズへの移行を後押ししている。



個人利用フェーズから組織的なAI活用フェーズへの移行を段階的にうまく進めている

清水建設における学習機会の提供事例

- ・清水建設ではデジタルリテラシーの底上げおよびDX推進人材育成を目的とした「シミズ・デジタル・アカデミー」を開講している。
- ・全従業員向けのe-ラーニング・集合研修から、DXコア人材120名育成プログラムまで、体系的な学習環境を整備している。

中期DX戦略（2024-2026）

- ・役員・従業員のデジタルリテラシーの底上げ
- ・DXコア人材120名育成
- ・データ・デジタル技術を活用した既存事業の高度化・新規価値創出

→→→AIと明示されていないが、デジタル技術を通じた既存事業の高度化・新規価値創出という目標は、AIファーストの思想と強く親和している

清水建設におけるAIプロジェクト推進事例

AIファーストの新プロジェクト組成

安全管理AI「カワセミ」、設計支援AI「ZEB SEEKER」など、建設現場や設計業務の高度化に直結するAIプロジェクトを推進。

業務効率化にとどまらず、AIを活用した新たな価値創出を目指す事例となっている。

安全管理AI カワセミ

建設現場の安全管理を支援するAIシステム。

作業員の行動や環境をカメラやセンサーでリアルタイムに分析し、危険行動やリスクを自動検知してアラートを出す。

* AIファースト宣言以前からの取り組み

設計支援AI ZEB SEEKER

建築設計段階で、省エネ性を最大化するためのAI支援ツール。

大規模建築の断熱・空調・窓配置などの設計条件を入力すると、AIが膨大なパターンを自動検証し、最適解を提示。

清水建設におけるAIプロジェクト推進事例

社内AIツールの開発と提供

2025年4月より生成AIアシスタント「Lightblue Assistant」を全社展開。

既に2,000名超が利用し、部門毎に業務特化型「マイアシスタント」を構築できる仕組みを導入。

技術文書や施工要領書をもとにRAG（拡張検索生成）型AIを活用し、膨大な設計・施工資料の活用効率を大幅に向上させることで、建設現場や設計部門での知識継承と生産性改善を狙っている。

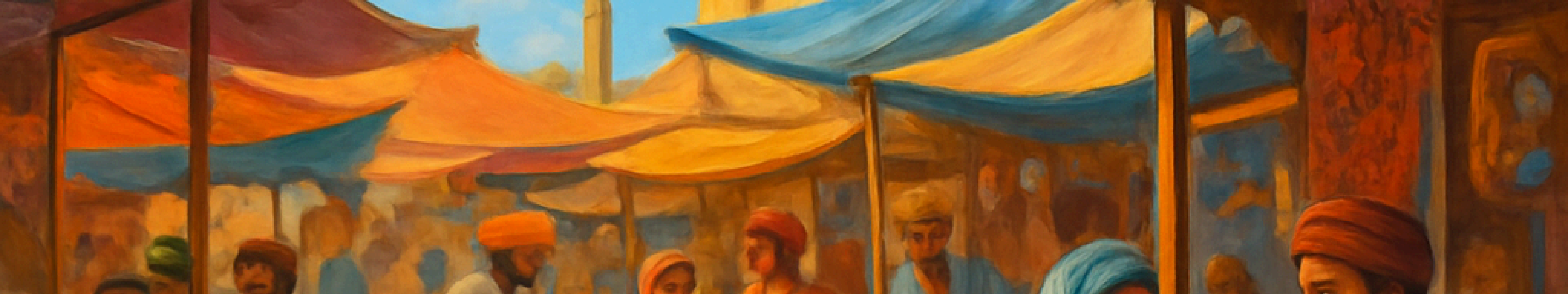
社内データやAIスキルの社内共有

ナレッジ共有ツール「Cosense」を導入。

7,000ページ超の業務知見を蓄積・検索可能にするなど、社内データの体系的な共有を進めている。

この**データ基盤**を基に、生成AIやRAGを活用した社内AIアシスタントを展開。

また、自社でデータの追加、更新などができるように、説明会・ハンズオン・部門別カスタマイズなどを通じて、AIアシスタントのアップデートとともに、従業員のAIスキルの向上も目指している。



6. 今回のまとめ



まとめ

AIファーストとは

AIが社会の基盤となるAI時代の経営スタンダードであり競争戦略

企業の思想そのものをAI前提で再設計すること

AIを導入するのではなく、ビジネスそのものをAI前提で変革すること

- 経営戦略
- サービス・商品設計
- 業務プロセス
- 組織文化

など、企業活動の全てに及ぶ。

*しかし全社員のAIリテラシー向上がその前提となる

まとめ

なぜAIツール配布のみのAI導入は失敗するのか？

AIツール導入は部分最適＝経営に対するインパクトが小さい

AIファーストは全体最適＝経営に対するインパクトが大きい

AIファーストに進むほど

コスト削減→→→価値創出

に進む

まとめ

AIファースト 4つのステップ

Step1:リーダーシップ

Step2:制度

Step3:仕組み

Step4:システム思考

AIファースト8つの取り組み

1.経営主導のAIファースト推進

2.各部署にAI推進リーダーを設置

3.AIツールを付与

4.AI学習機会の提供

5.AIファーストの新プロジェクト組成

6.AIツール活用レベルを測る評価基準の導入

7.社内AIツールの開発と提供

8.社内データやAIスキルの社内共有

**経営変革として4つのステップの計画と
8つの取り組みをスピーディーに実行することが必要**

お問い合わせ

AIファースト経営に関するお問い合わせは下記より承っております。
お気軽にご連絡ください。

<https://exdream-inc.com/#inquiry>



EXDREAM株式会社

住所：102-0083

東京都千代田区麴町3丁目5-4

麴町インテリジェントビルB-1

代表取締役 CEO：斎藤喜寛

取締役 COO：和田直春

事業内容：AIビジネスの価値創造

設立：2013年11月

E-mail：info@exdream-inc.com

TEL：03-6272-6888